

あいが隊 新聞



本多
紗智



前田
美沙



西野
明花



篠田
大樹



片山
素晴

Vol. 87

2020年7月22日

編集者：篠田 大樹

六月からの活動

(文・篠田 大樹)

六月からはお茶の整枝作業と茶畑の草刈りが始まり、ていざなすの管理と相まって一気に忙しくなって来ました。雨の日が多く、整枝作業がなかなか出来ない日もありますが七月後半には終わりそうです。また、お茶を天龍峡にある旅館「峡泉」様に置いていただけることになりました。県外から訪れるお客様にも味わっていただけたらと思います。

ていざなすはどんどん成長し六月末から実が穫れだし、七月八日に初出荷をしました。可愛がって育てた野菜が日々成長し、収穫が出来るというのはとても嬉しく、農業の醍醐味なのかなと思います。一方、徐々に害虫も増え出し、食べられてしまった実もあるので防除等管理もしっかり行い、良いものがたくさん出荷できるようにしたいです。



茶畑 ↑6月15日撮影
←6月25日撮影(整枝後)

ていざなす
↓6月29日撮影 6月25日撮影→



刻々天龍村 文月だより 文・本多紗智

こんにちは。今年は本当に雨が多くて滅入ってしまってますね。昨年の今頃はインターンシップの大学生と毎日のように村内をあちこち駆け回っていたなー、楽しかったなー、と懐かしくなっています。コロナで外から人を呼べないのが寂しいですし、個人的には西日本に知人が多いので、会いに行けないのがつらいです。

先日、村のなにげない日常が伝わるよう編集を重ねた写真広報誌「天龍百景・春号」の入稿が終わりました。とりあえずふるさと納税に封緘しますが、余った分は欲しい人に渡るようにしたいと思います。見てくれた方から何かしら反応があると嬉しいです。

梅雨明けからは夏号の撮影編集に入ります。夏の行事、畑作業の様子、移り変わる風景など、色々記録していければと思います。梅雨明けから一気に猛暑が始まりそうですが、体調管理などしっかりしていきたいですね。



と

じ

し

る



大雨の影響で不安な日々が続いていますが、皆様大丈夫でしょうか。外作業もなかなか思うように進まないので、梅雨明けを祈りつつ久しぶりにてらる坊主を作ってみました。いつもの穏やかな天竜川と晴れ渡った空が見られる日を心待ちにしつつ、てるてる坊主と紫陽花を楽しんでいます。さて、天候の影響で滞ってはいるものの最近も引き続きお茶の整枝作業をしています。

中井待地区で請け負わせて頂いている総面積、約1ha中の80aが整枝し終わり、なんと7月中に全て終えられそうです。

雨で鬱々としてしまいがちですが、引き続き体調などに気をつけて梅雨を乗り切りましょう！

素晴らしい暮らし

部屋で過ごすには快適ですが、外で農作業をするのに困った天気ですね。長雨と日照時間の不足が懸念されます。この新聞が回覧される頃には梅雨明けしているでしょうか。

農業を始めて半年ですが、利益をだすのは難しいと痛感しています。収穫までに堆肥・肥料・農薬などの支出があり、自然環境による収穫量の減少。やはり業とするには、建物の中で光と水・温度などを管理する初期投資ができる企業の都市農業（植物工場）が主流になっていくのでしょうか。

主流と言え、ていざなすとパブリカが収穫期。調整方法の相性が良いのでセツトでいかがでしょう。

（記・片山素晴）



「見守り・買物ご用聞き」では毎日それぞれのルートを回る予定ではあります。梅雨時期は地盤も緩んでい

約1か月半配達等で村内を回ってみて、運送業の大変さを感じ、従事者に頭が下がるばかりです。道に石や枝が落ちてい

嬉しいこともありました。不安な道中を抜けてお家に行く

私は5年前に天龍村のファンになりました。たくさんのお世話になり、ここまで来れました。今度はこの「見守り・ご用聞き事業」に携わることで恩返し

と

じ

し

る